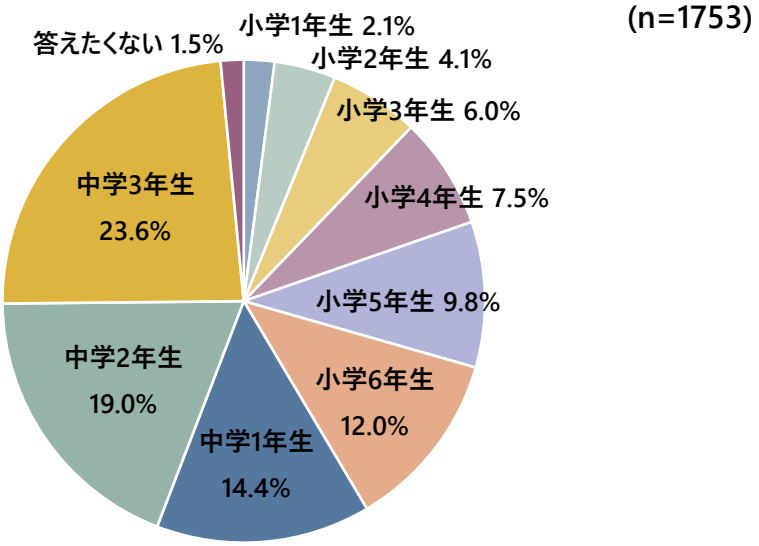
調査結果【概要】

（１）不登校児童生徒

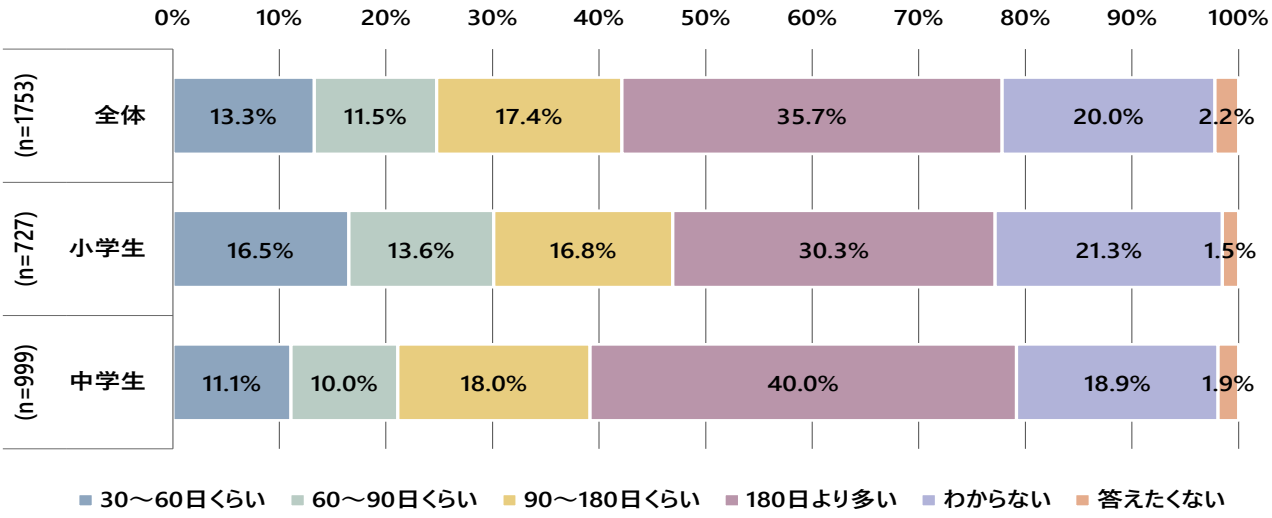
①回答した児童生徒の学年

児童生徒の回答者は、小学生が 41.5%、中学生が 57.0%であった。



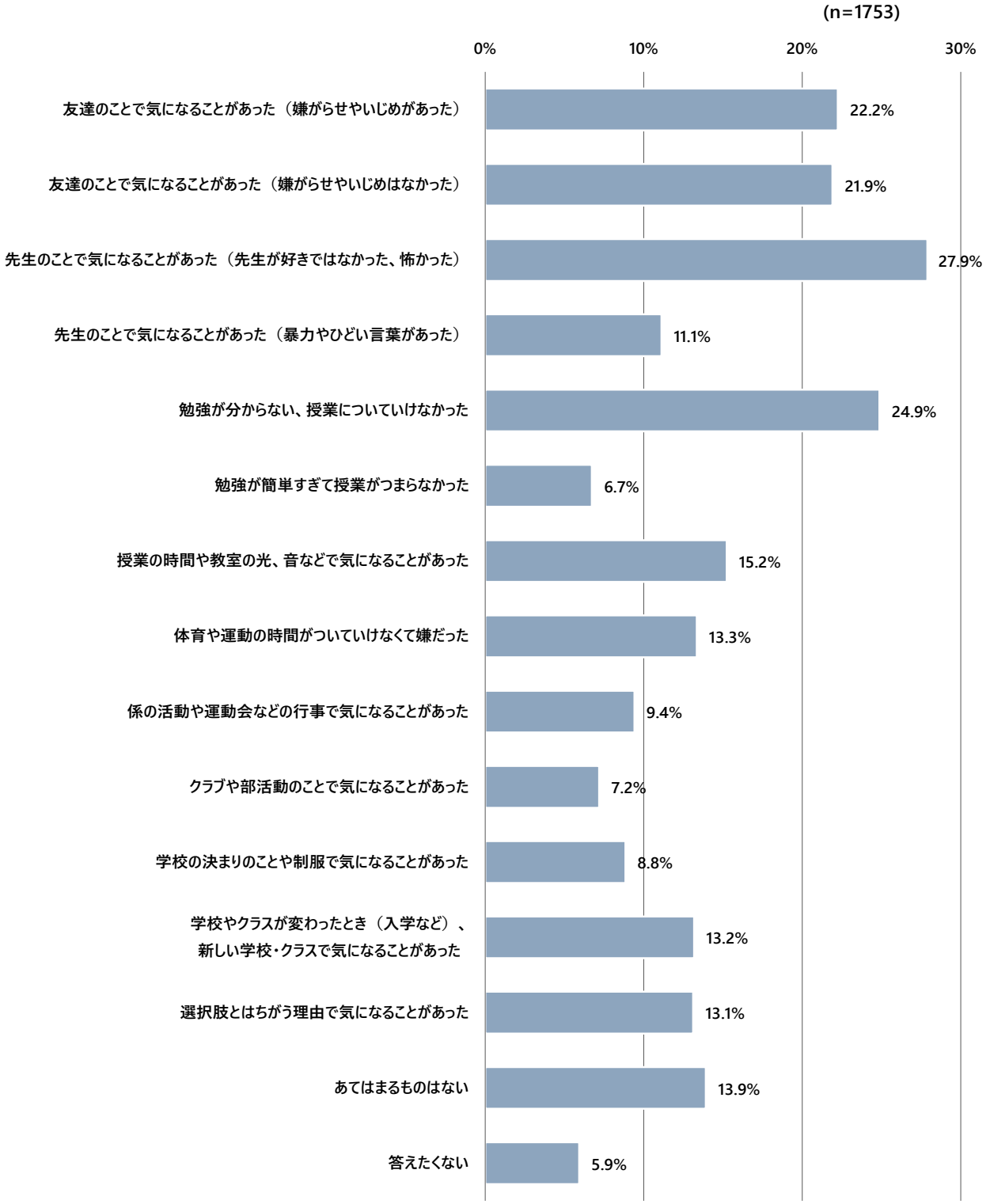
②令和４年度に学校を休んだ日数（学校種別）

「180 日より多い」が最も多く 35.7%、次いで「わからない」が 20.0%、「90～180 日くらい」が 17.4%となっている。



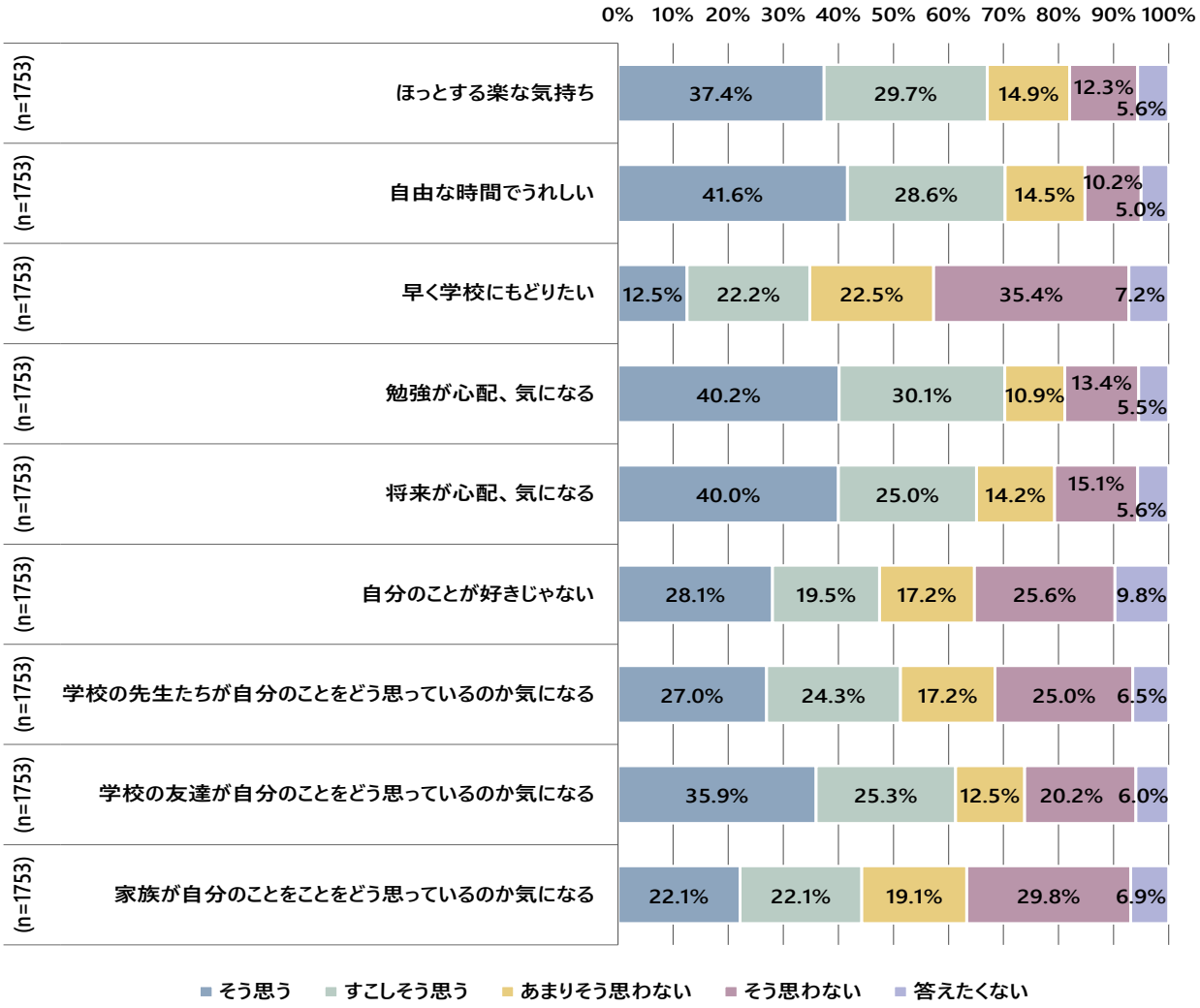
②学校に「行きたくない」と思ったきっかけ（学校のこと）

「先生のことで気になることがあった（先生が好きではなかった、怖かった）」が最も多く 27.9%、次いで、「勉強が分からない、授業についていけなかった」が 24.9%、「友達のことで気になることがあった（嫌がらせやいじめがあった）」22.2%となっている。



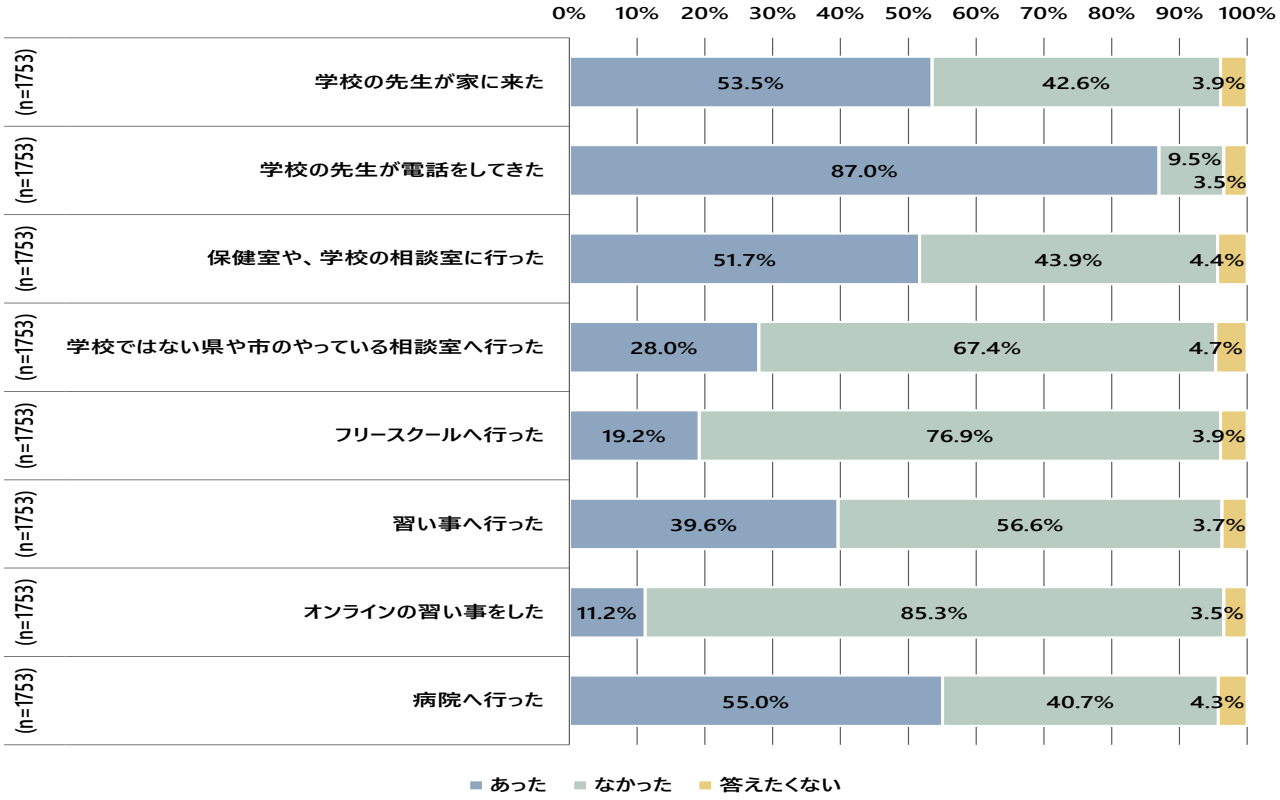
③学校を休んでいるときの気持ち

「そう思う」「すこしそう思う」の合計を見ると、「自由な時間でうれしい」（70.2%）、「ほっとする楽な気持ち」（67.1%）の回答が多い一方で、「勉強が心配、気になる」（70.3%）、「将来が心配、気になる」（65.0%）、「学校の友達が自分のことをどう思っているのか気になる」（61.2%）という回答も多くなっている。



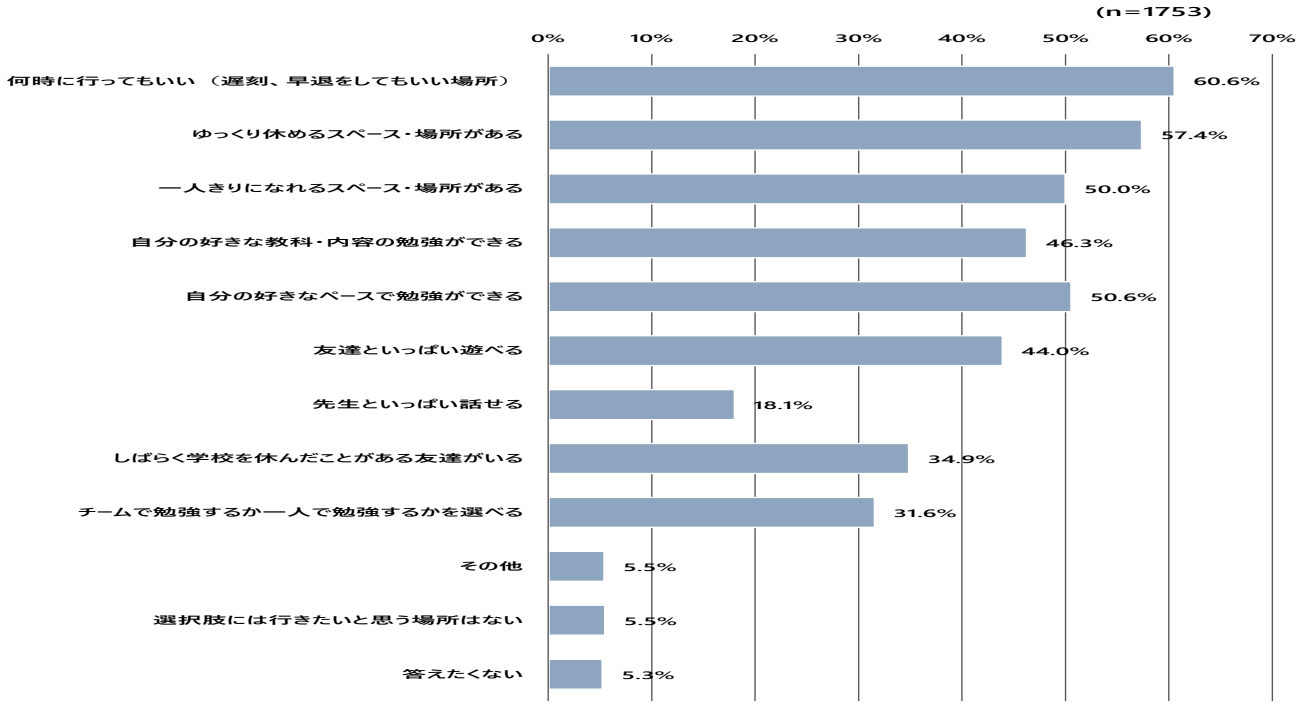
④学校を休んでいるときにあった・行ったこと

「学校の先生が電話をしてきた」が最も多く 87.0%、次いで、「病院へ行った」が 55.0%、「学校の先生が家に来た」が 53.5%となっている。



⑥どんな場所に行きたいか

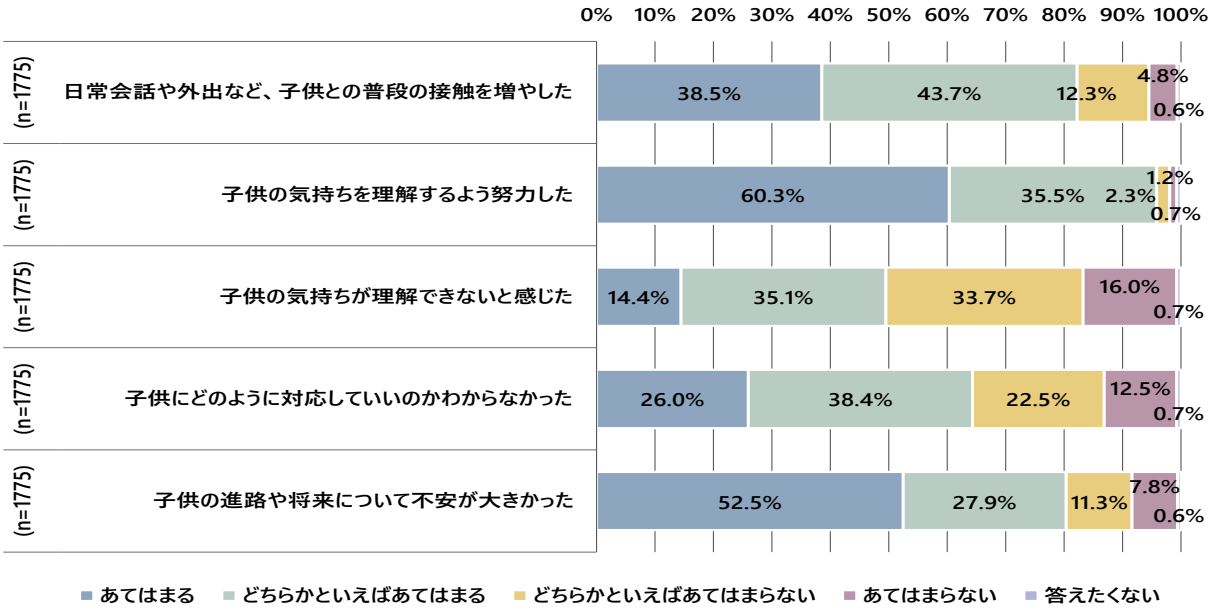
「何時に行ってもいい（遅刻、早退をしてもいい場所）」が最も多く 60.6%、次いで、「ゆっくり休めるスペース・場所がある」57.4%となっている。



（２）保護者

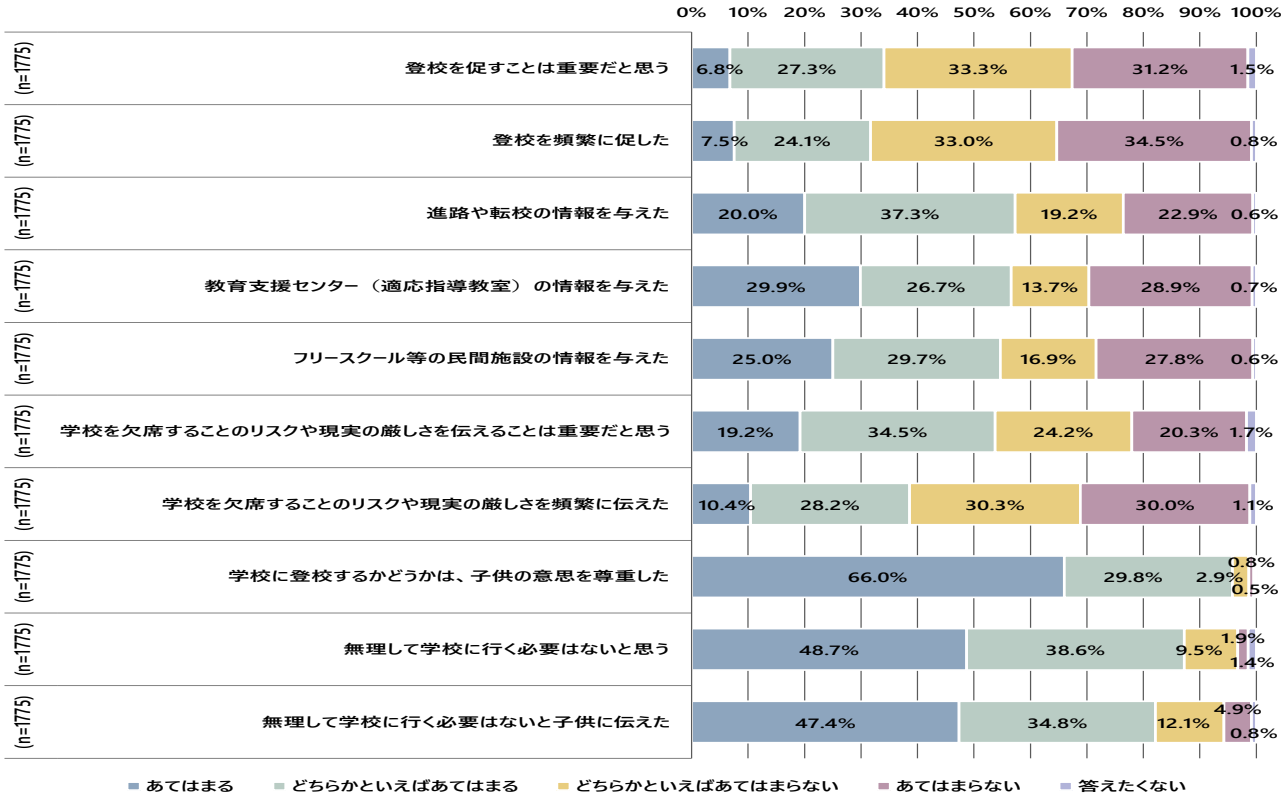
⑦子供との関わりについて

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、「子供の気持ちを理解するよう努力した」95.8%、「日常会話や外出など、子供との普段の接触を増やした」82.2%、「子供の進路や将来について不安が大きかった」80.4%となっている。



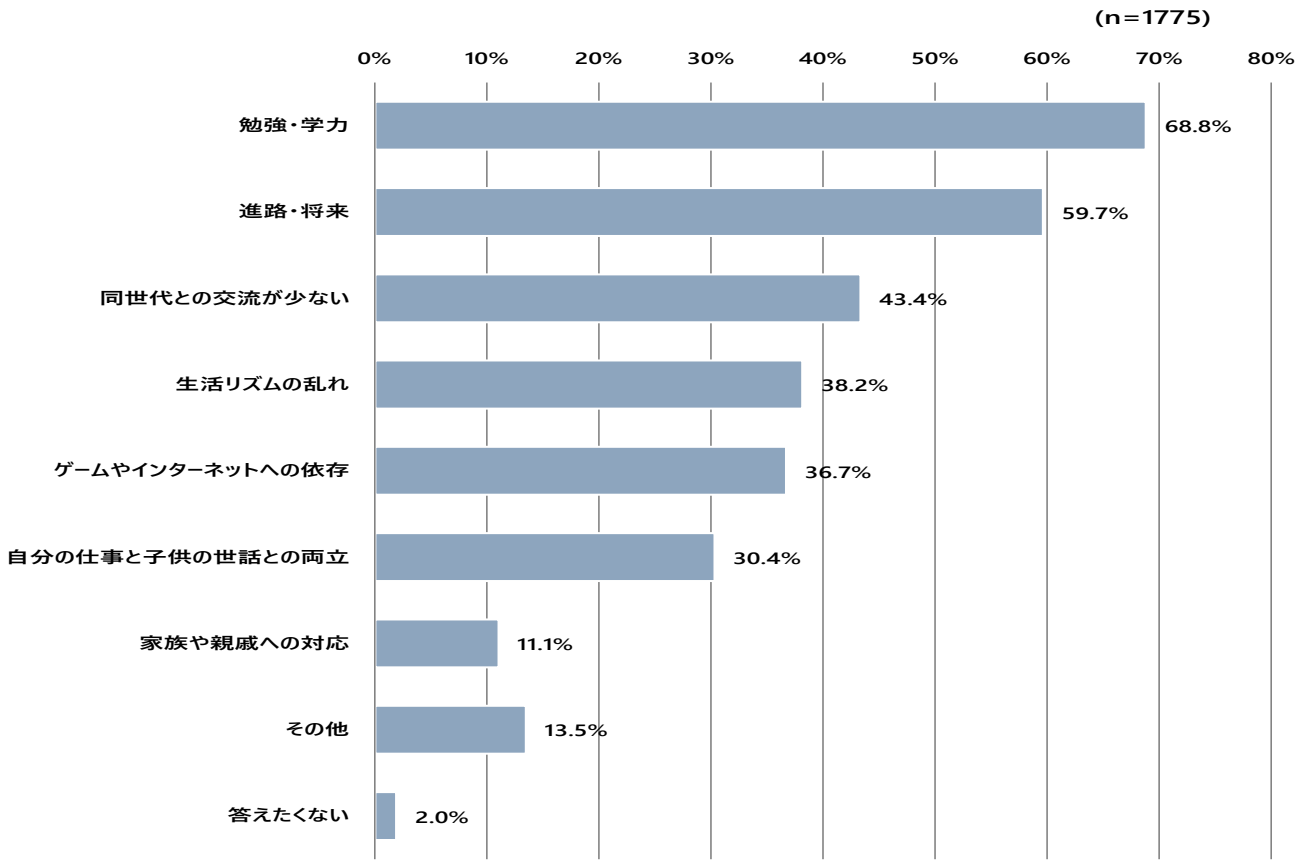
⑧学校や関係機関に関する、保護者から子供への働きかけ

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、「学校に登校するかどうかは、子供の意思を尊重した」が最も多く 95.8%となった。



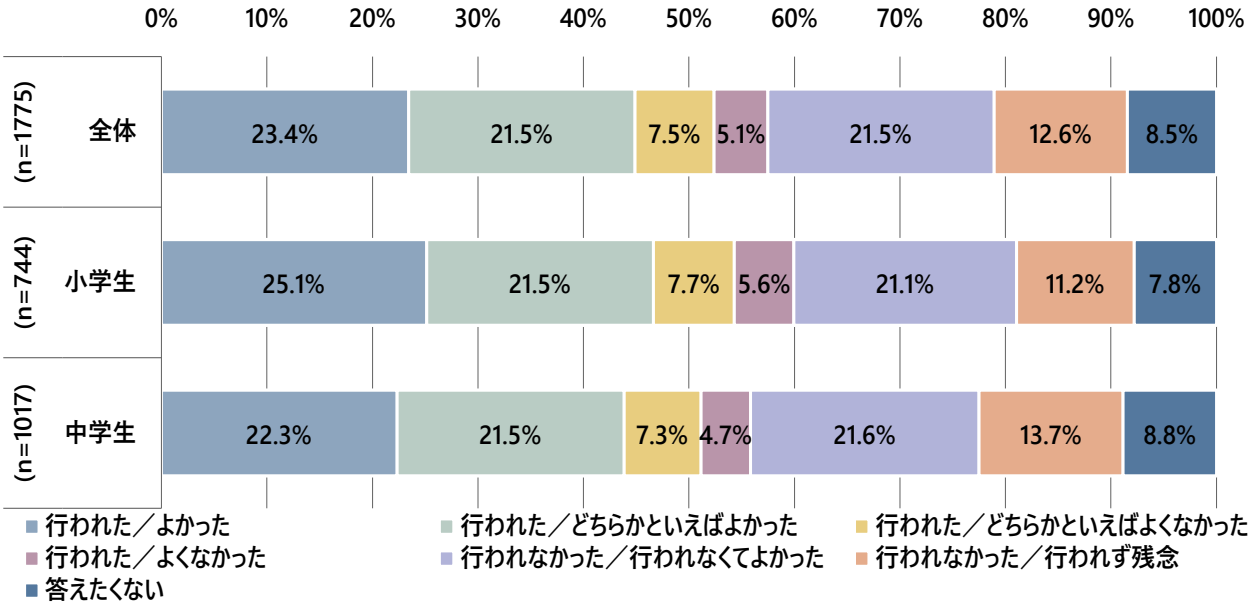
⑨今、子供のことで困っていること

「勉強・学力」（68.8%）、「進路・将来」（59.7%）の回答が多い。



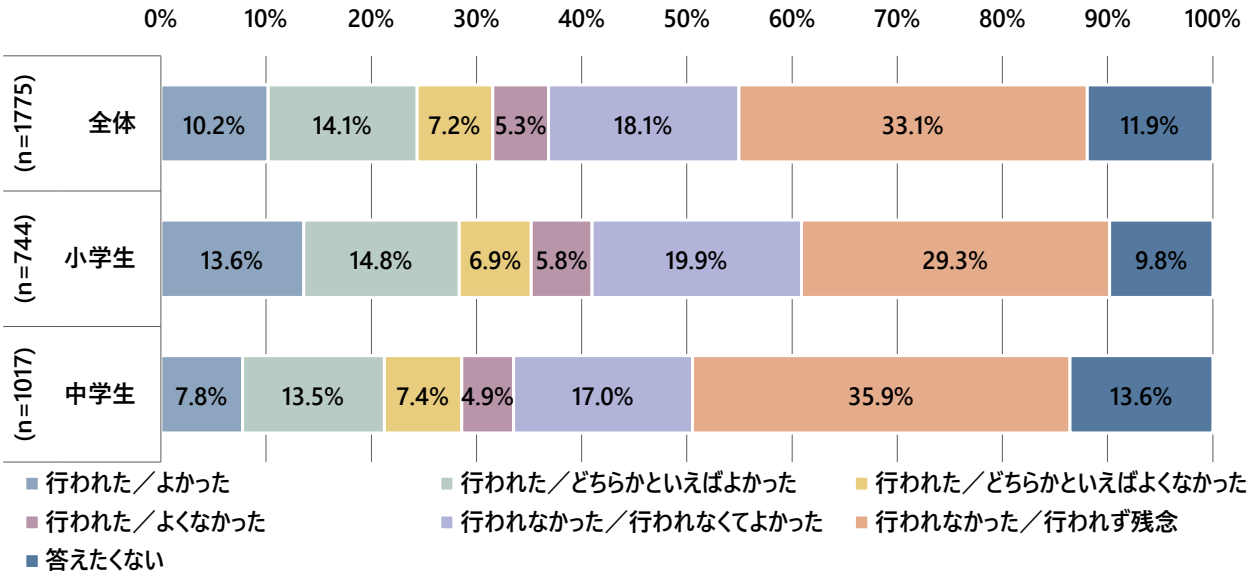
⑩スクールカウンセラーへの相談

実際に相談を利用し、「よかった」等の肯定的な回答が 44.9%、否定的な回答が 12.6%、「利用できず残念」が 12.6%であった。



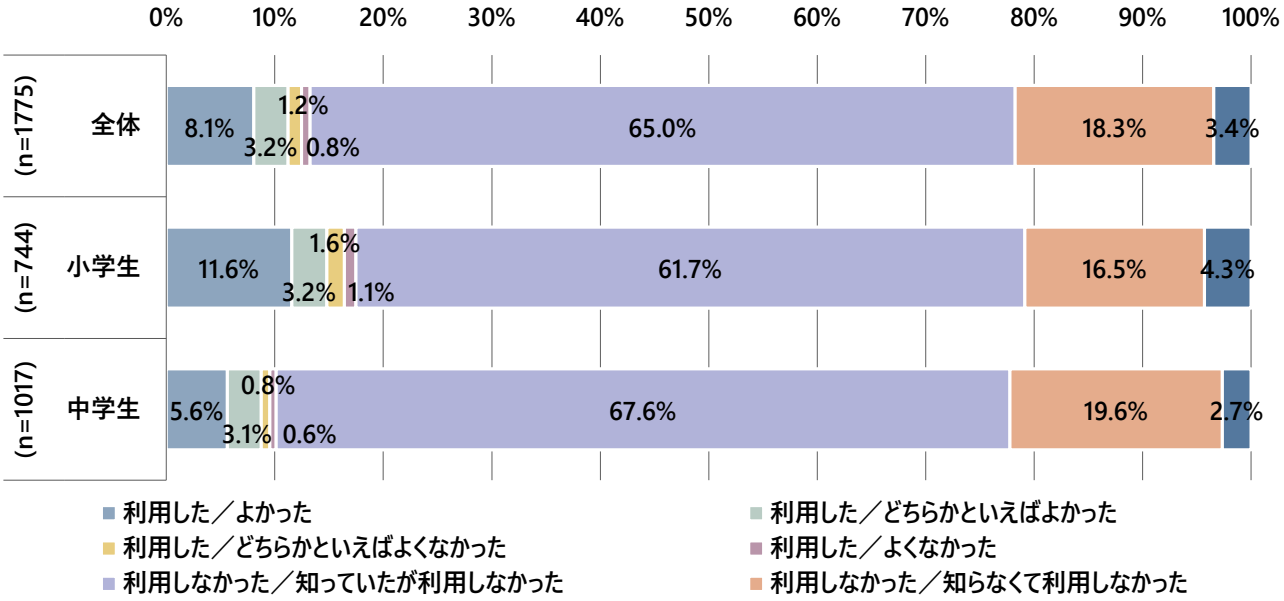
⑪学校によるオンラインを活用した学習支援

「行われずに残念」が 33.1%で最も多い。



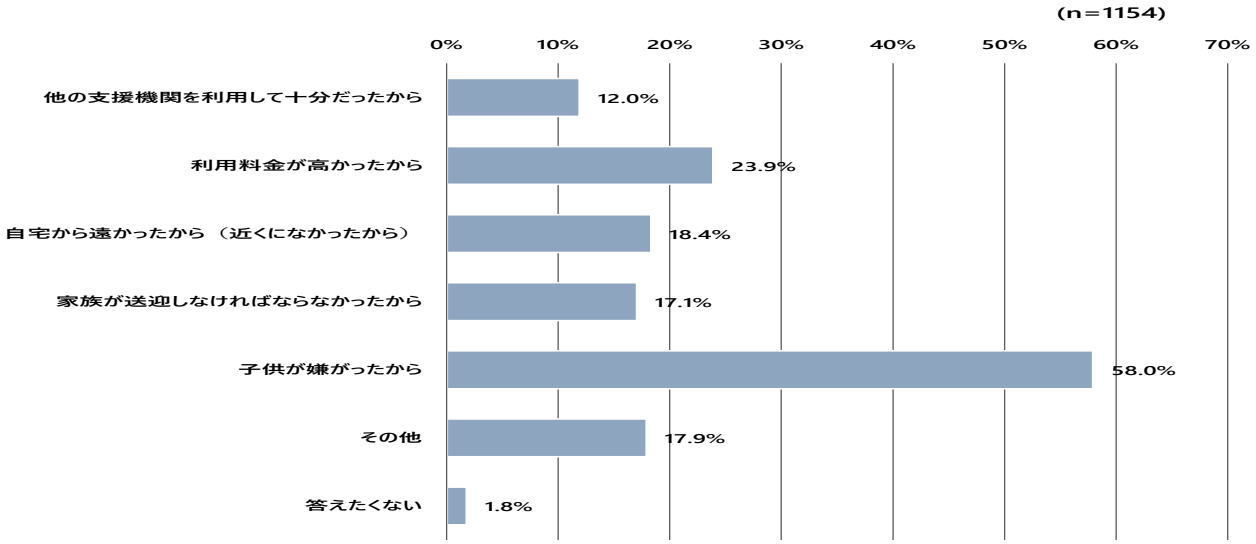
⑫民間施設（フリースクール等）へ通所

「知っていたが利用しなかった」が 65.0%で最も多い。



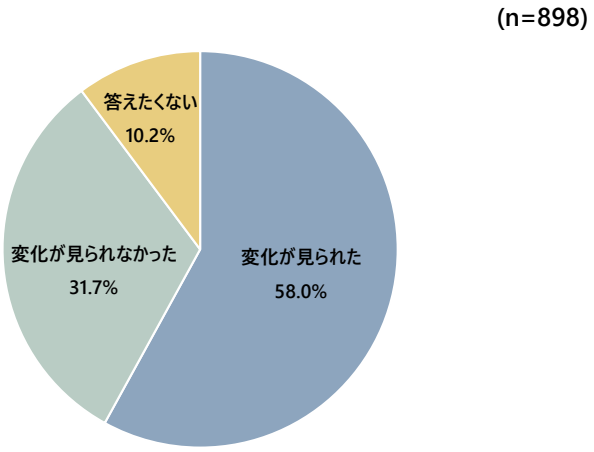
⑬「知っていたが利用しなかった」理由：民間施設（フリースクール等）へ通所

「子供が嫌がったから」が最も多く 58.0%、次いで、「利用料金が高かったから」23.9%となっている。



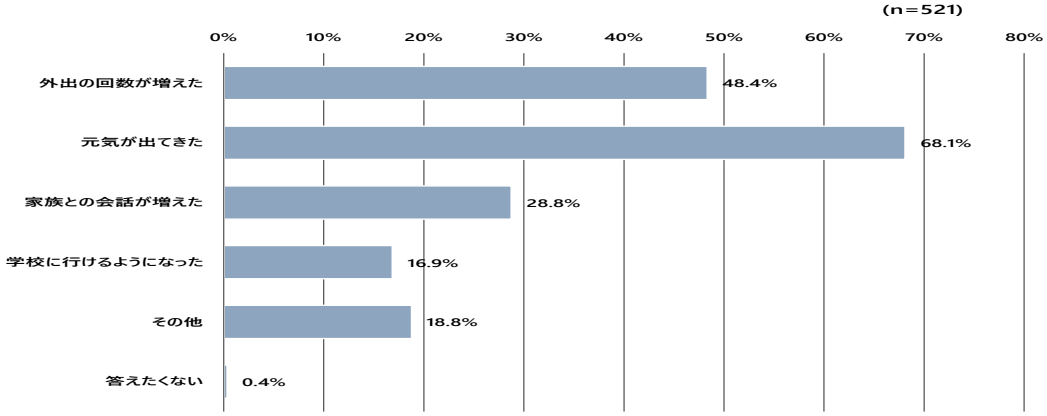
⑭支援機関を利用し始めてから子供に変化が見られたか

「変化が見られた」が 58.0%、一方「変化が見られなかった」は 31.7%。



⑮変化の具体的な内容

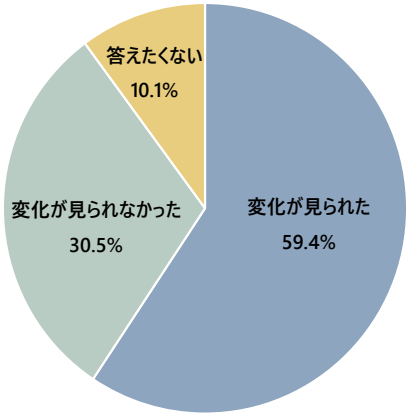
「元気が出てきた」が最も多く 68.1%、次いで、「外出の回数が増えた」が 48.4%。



⑯支援機関を利用し始めてから家族に変化は見られたか

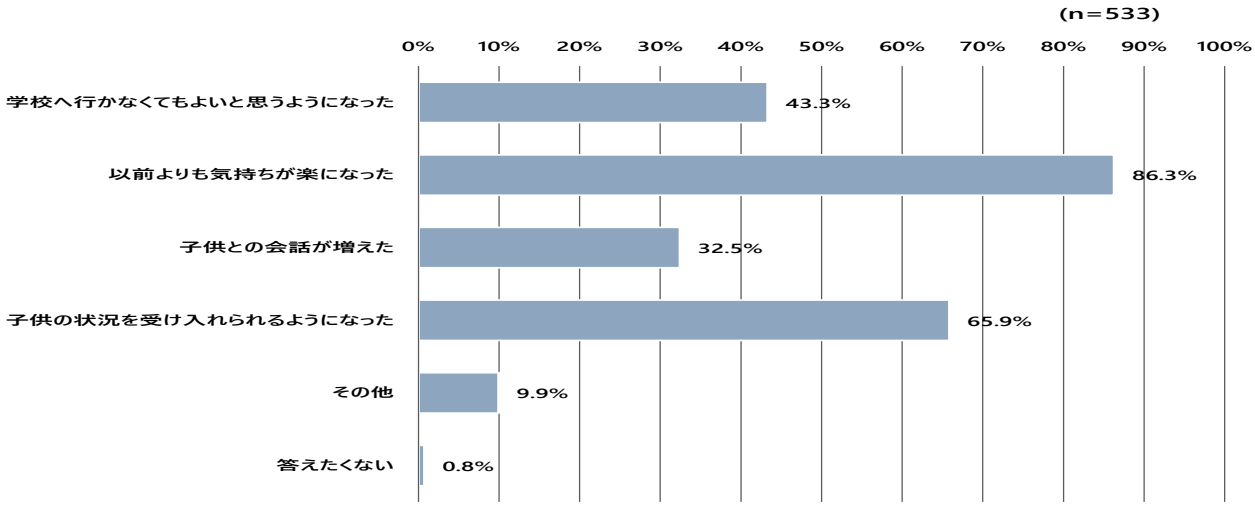
「変化が見られた」が 59.4%、一方「変化が見られなかった」が 30.5%。

(n=898)



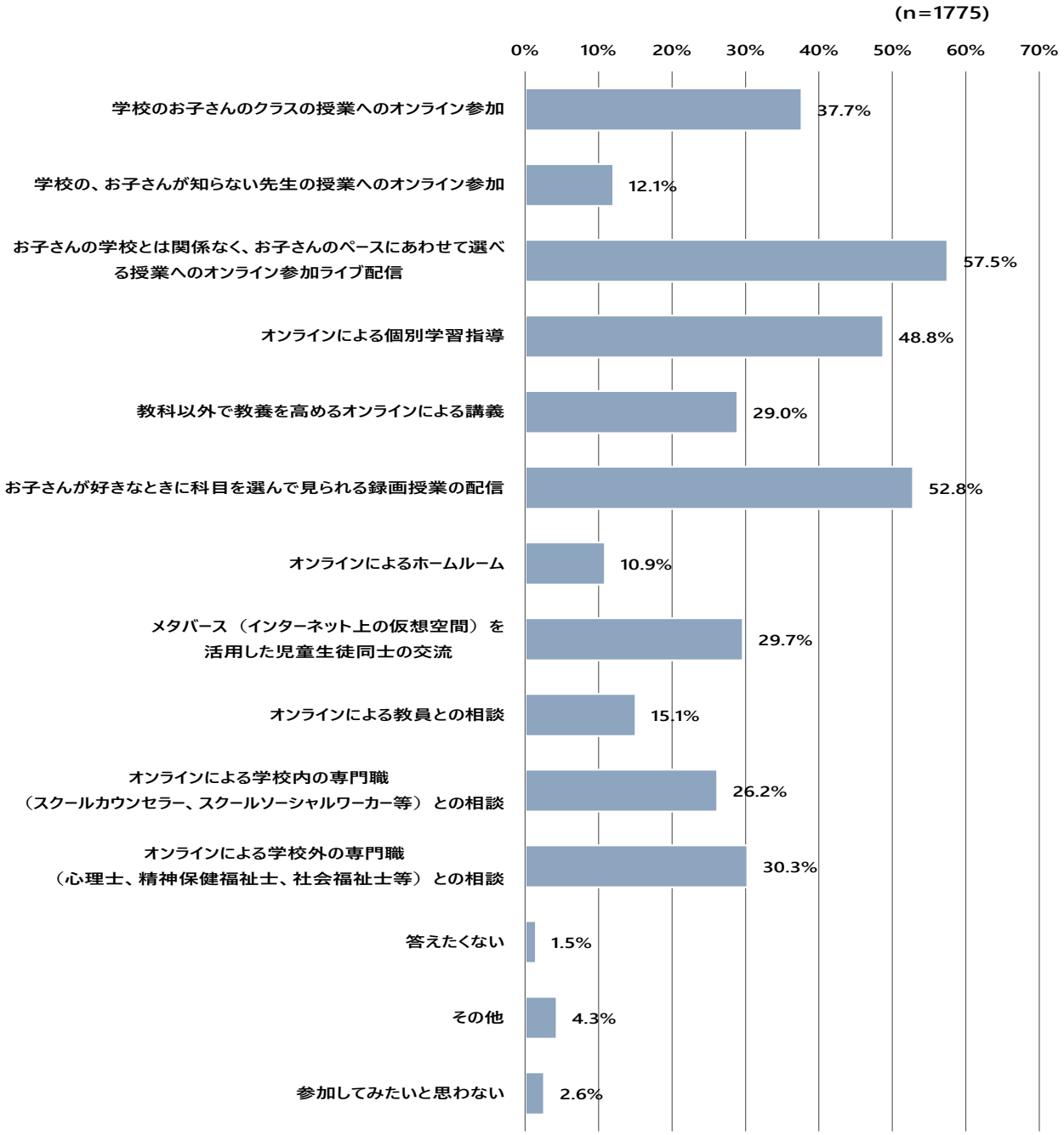
⑰変化の具体的な内容

「以前よりも気持ちが楽になった」86.3%で最も多く、次いで、「子供の状況を受け入れられるようになった」が 65.9%となっている。



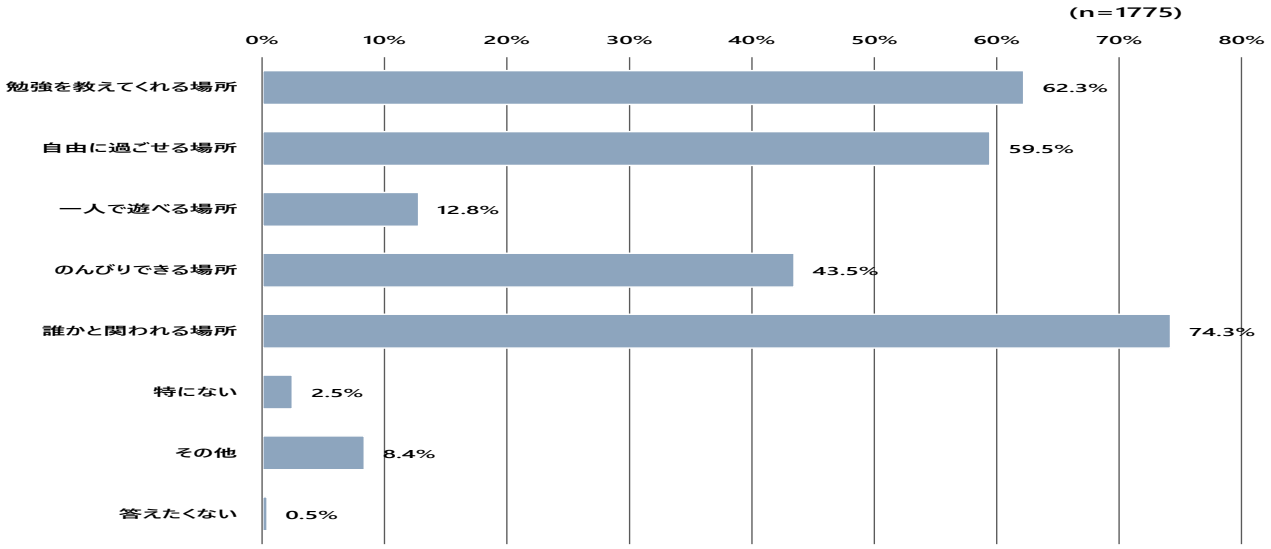
⑱インターネットでどのようなことに参加させたいか

「お子さんの学校とは関係なく、お子さんのペースにあわせて選べる授業へのオンライン参加ライブ配信」が最も多く 57.5%、次いで、「お子さんが好きなときに科目を選んで見られる録画授業の配信」52.8%となっている。



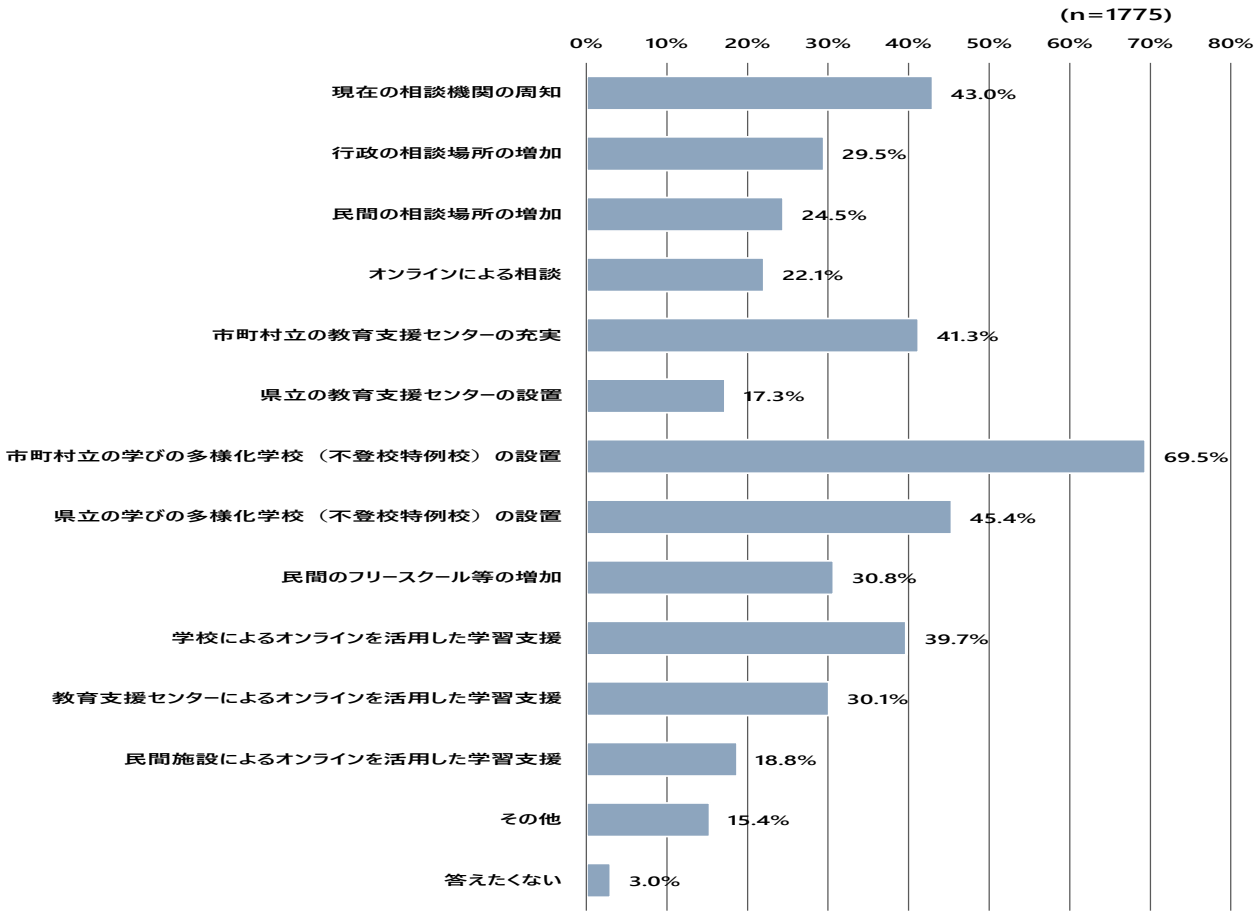
⑲学校を休んでいる時、どのような場所で過ごさせたいか（自宅以外）

「誰かと関われる場所」74.3%と最も多く、次いで、「勉強を教えてくれる場所」62.3%、「自由に過ごせる場所」59.5%となっている。



⑳不登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うか

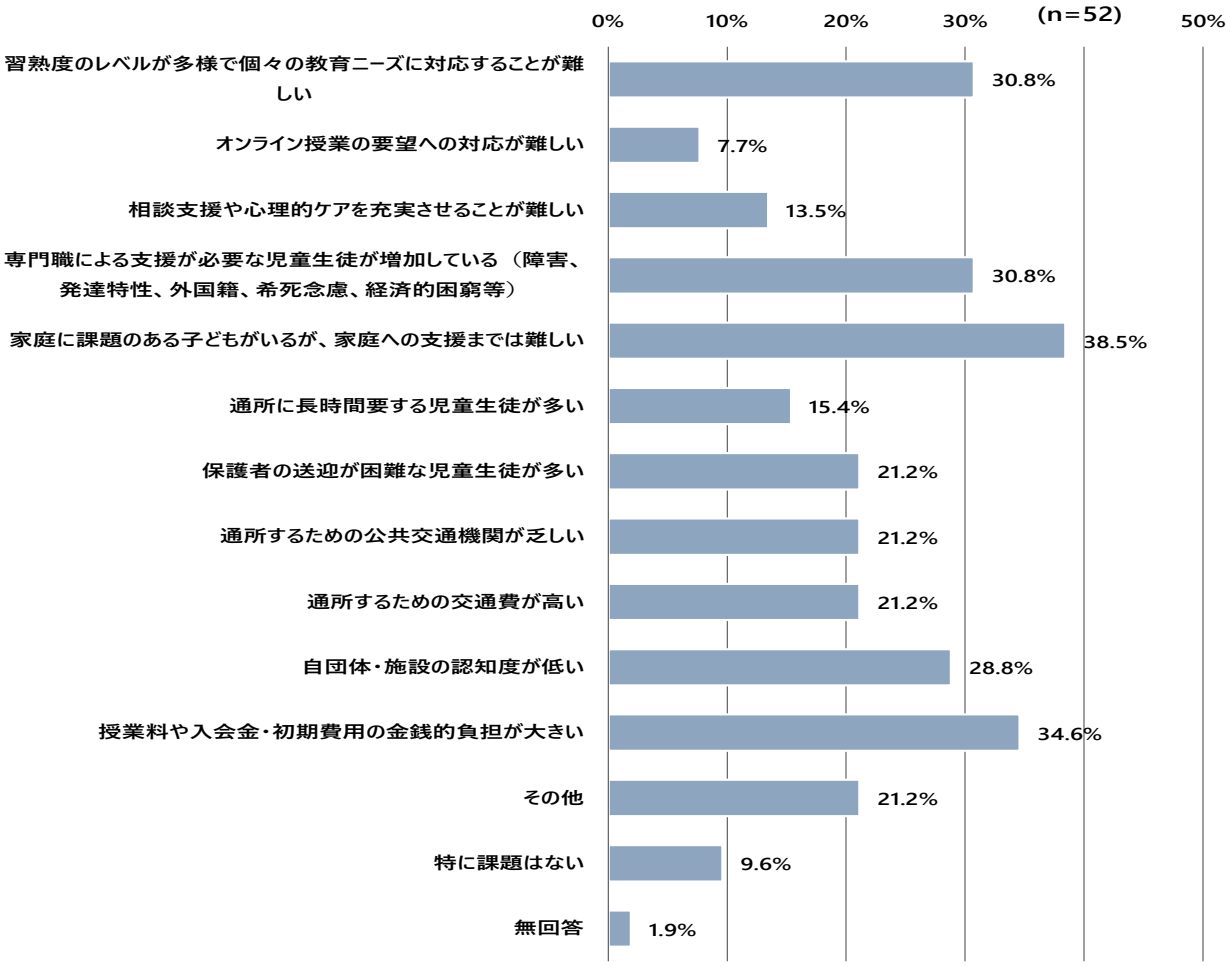
「市町村立の学びの多様化学校（不登校特例校）の設置」が 69.5%と最も多く、次いで、「県立の学びの多様化学校（不登校特例校）の設置」が 45.4%、「現在の相談機関の周知」が 43.0%となっている。



（３）フリースクール等民間団体への調査

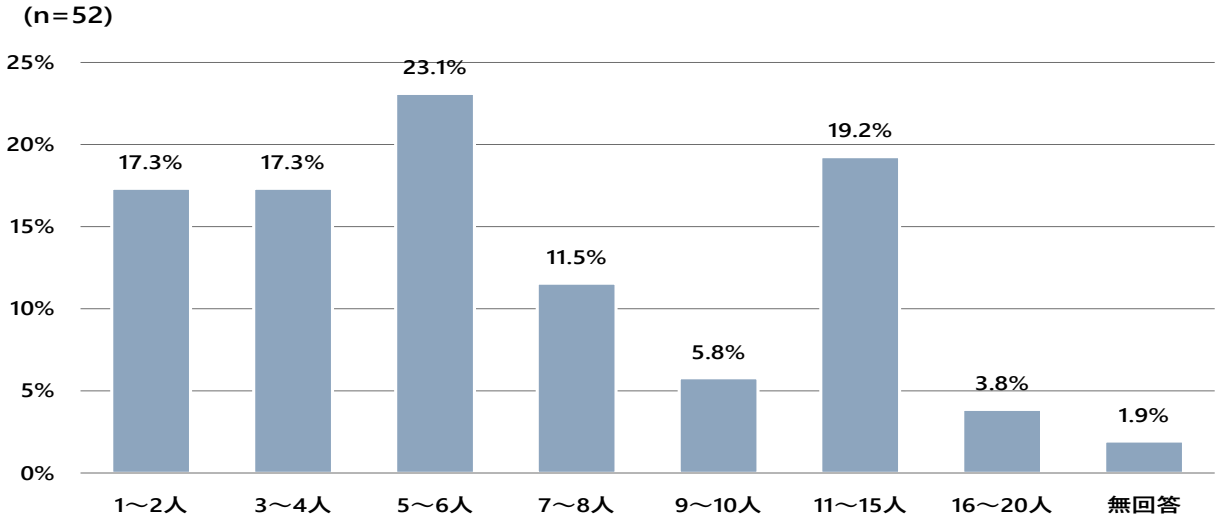
㉑フリースクールから見た不登校児童生徒が利用するにあたっての課題

「家庭に課題のある子どもがいるが、家庭への支援までは難しい」が最も多く38.5%、次いで、「授業料や入会金・初期費用の金銭的負担が大きい」34.6%となっている。



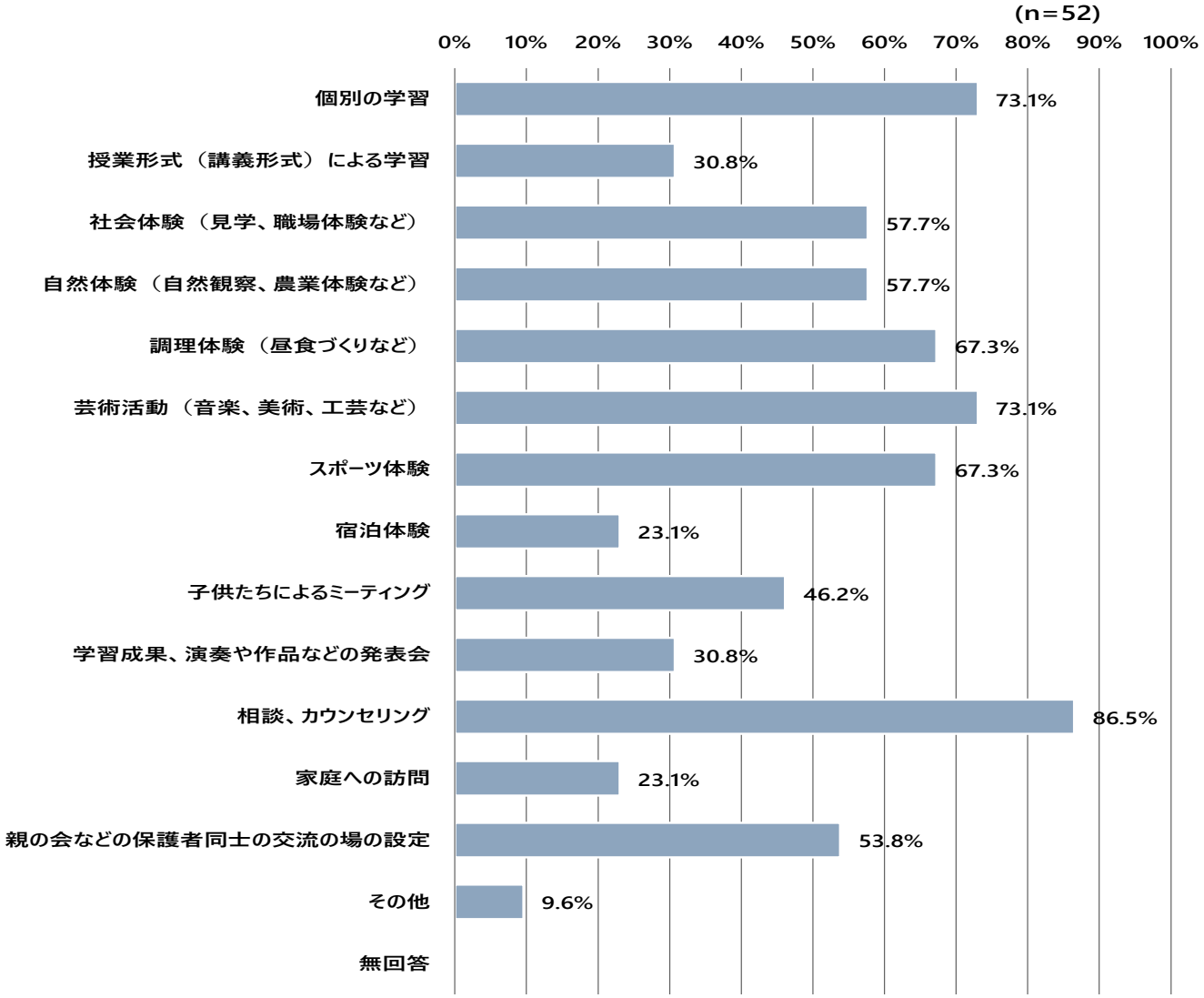
㉒スタッフ数（総数）当たり団体・施設数

「５～６人」が23.1%と最も多い。



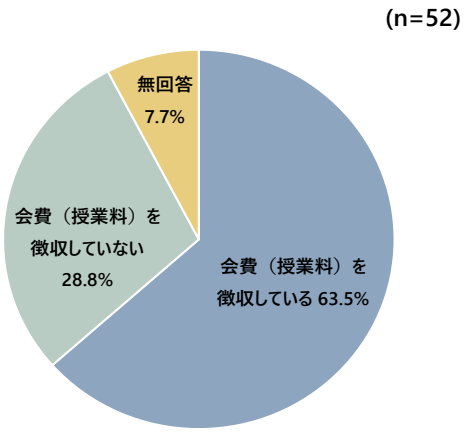
㉓フリースクール等の活動内容

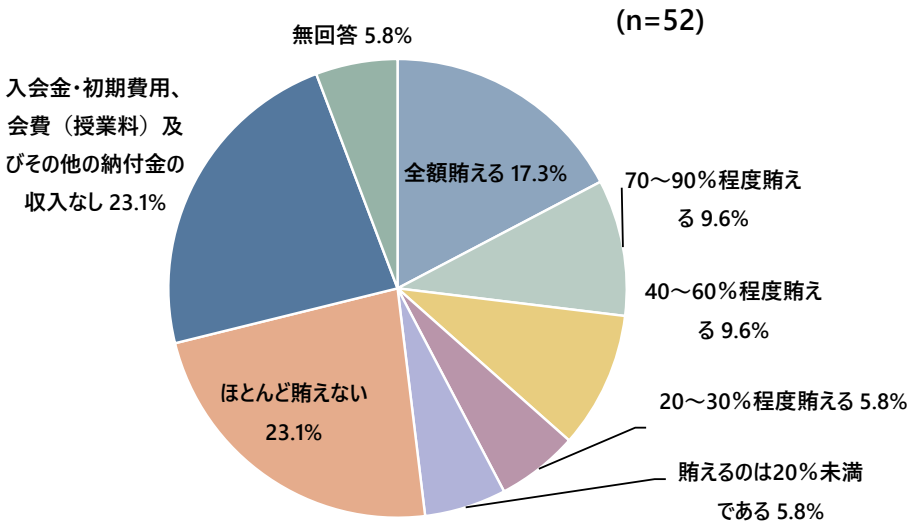
「相談、カウンセリング」が 86.5%と最も多く、次いで、「個別の学習」「芸術活動（音楽、美術、工芸など）」がともに、73.1%となっている。



㉔会費（授業料）の徴収

「会費（授業料）を徴収している」が 63.5%、「会費（授業料）を徴収していない」が 28.8%となっている。



㉕全体の運営費のうち、入会金・初期費用、会費（授業料）の月額、及びその他の納付金の収入により賄える程度

「全額賄える」「70～90%程度賄える」を合わせると 26.9%、「ほとんど賄えない」「収入なし」を合わせると、46.2%となっている。